

斜網地区 広域ごみ処理基本計画(案)へのご意見と斜網地区の考え方・対応について

No	意見の内容	斜網地区の考え方・対応
1-1	<p>ごみ（廃棄物）問題は、人が生きている以上必ず生じるものであり、すべての人の協力で成り立っているということを忘れて</p> <p>いる。</p> <p>この基本計画が、この地域に寄り添った内容なのか・・・という疑問です。</p> <p>主人公になる 1 市 4 町の市民と、行政の特徴に合っているのか、市民性、町民性と</p> <p>いった他の地域とは異なる内容に合っているのか、どうやって判別するのかわからない。</p>	<p>広域ごみ処理基本計画（案）は、各自治体が抱えるごみ処理行政に関する特色・課題や方向性を踏まえた計画を立案するよう、1 市 4 町による『斜網地区廃棄物処理広域化推進協議会』で検討を行い策定された</p> <p>ものです。</p> <p>またパブリック・コメントの実施にあたっては、各自治体の議会で内容をご説明させていただいた上で計画（案）を提示させて頂きました。</p> <p>今後も地域の特徴を踏まえたごみ処理行政を推進するよう取り組んでまいります。</p>
1-2	<p>今後清里町も参入するであろう未来の予測も不足していると思う。</p>	<p>将来、清里町の広域参加を視野に入れた計画・予測をしております（2-136 頁）。</p>
1-3	<p>冬季間の道路状況、長距離輸送というこの地域ならではの課題の内容が不明瞭。</p>	<p>ごみ処理の広域化と処理施設の集約化に向けて、「北海道ごみ処理広域化・処理施設集約化計画」（R4.7）では豪雪地帯の 1 市 4 町に清里町を含む斜網ブロックを一つの単位として設定しています（2-8 頁）。</p> <p>長距離輸送で、特別豪雪地帯の清里町を通過し冬期・豪雪時の移動が困難な斜里町については、中継施設の整備・必要性を課題として提示しました（2-122 頁）。</p> <p>冬期豪雪時や長距離輸送等の課題に対し、必要な塵芥車の台数・仕様や搬入経路等について、今後も広域化推進協議会で検討を進めたいと考えます。</p>
1-4	<p>同じ基本計画が他の市町村でも使われているのではないかと疑問が残る。</p>	<p>ごみ処理基本計画は、環境省「一般廃棄物処理基本計画策定指針(H28.9.15)」に準じて策定することから他市町村と似た構成になること、ご了承下さい。</p> <p>斜網地区の課題と将来性を見据えた計画となるよう、広域化推進協議会を経て策定しました（回答 1-1 のとおり）。</p>

No	意見の内容	斜網地区の考え方・対応
1-5	<p>現在の網走市のゴミ処理（廃棄物）に年間かかっている費用（業務委託費や経費など）が市民一人あたりいくらかかっている、今後計画する内容のものは、初年度、3年後、5年後、10年後、13年後、15年後、20年後、それ以上と、市民一人あたりに換算するといくら負担になるのかという具体的な数字を提示すべきだ。</p> <p>具体的な数字の提示がない中では、ただの空論にしかすぎず、説得力がない。人口は確実に減り、国や市に入るお金は減る中で、広い地域がフィールドのこの地域で、燃料の確保、運搬にかかる時間、施設の維持費といったかかるお金は、未来の一人あたりの負担金額を提示して検討をする必要がある。100億円という莫大な金額が提示されている施設の検討で、リスクをすべて上げ、検討した中でよりリスクの低いものやリスクを回避できる可能性が高いものを選択すべきだ。網走市は、そのような検討の過程が不透明で信憑性がない。</p>	<p>1人当り年間処理経費に要する具体的な金額の他、ごみ排出量、資源回収率、最終処分量の割合等について、斜網地区におけるごみ処理行政を総合的に評価しております（2-60頁～2-72頁）。</p> <p>網走市の1人当り年間処理経費は14,861円（令和2年度一般廃棄物処理実態調査_環境省）であり、北海道の平均より安価ですが、最終処分量の割合が高いことから、比較的成本を要しますが、中間処理による減容が必要と考えます。</p> <p>将来的な維持管理費については、住民の皆様負担が少なくなるよう、検討していきたいと考えます。</p> <p>網走市における斜網地区への参加については、広域処理と市単独処理のイニシャル・ランニングコスト（概算金額）の比較を議会に提示し、1市4町による広域処理を進めることを基本方針としました。</p> <p>施設整備を検討していく中で、収集・運搬に要する詳細な費用や各自治体における負担割合などに関する協議・検討を引き続き進めたいと考えます。</p>
1-6	<p>基本計画はどう考えても、先の見通しが暗く、より多くの課題や稼働してからの問題点が多くより厳しい方向に向かっているように思える。</p> <p>万が一、過去の何かを隠蔽しようとしていて、それがより足かせになって、判断が鈍っていることがあるならば、一刻も早く自ら詳細を明るみにして、目指す方向を改めるべきだ。</p>	<p>頂いたご意見を真意に受け止めて、今後もパブリック・コメント等による情報公開や意見聴取により、市民の皆さまと行政が一体となった計画づくりを目指す所存です。</p>

No	意見の内容	斜網地区の考え方・対応
1-7	<p>市町村の連携は不可避だ。その町その町ごとに得意とする分野や苦手とする分野を明確にし、役割を考えてほしい。連携する町の、現時点での役割が何か明確に示してほしい。</p> <p>昨今、社会情勢が変化し、不安を抱えながら生活をせざるを得ない市民の、未来の市民へより重い負担がかかる方法を選択しないでほしい。つくって動き出してしまったら始まりです。これまでの廃棄物処理で、市民の課題として挙げられる点が市町でまとめられているのか、その改善点を基本計画に盛り込むべきだと思う。</p>	<p>各市町が単独で整備した既存のごみ処理施設の状況に関する問題を示した中で（2-12 頁～2-35 頁）、中間処理に関する 1 市 4 町の広域・連携が不足しているといった、ごみ処理行政の課題を整理しました（2-73 頁～2-77 頁）。</p> <p>広域連携に向けて、各市町ではごみ処理区分を変更すること（2-111 頁～2-121 頁）、また 1 市 4 町が一体となって、既存の大空町焼却処理施設の更新に併せた新たな中間処理施設を整備する計画としております（2-123 頁～）。</p>
1-8	<p>施設のハード面ばかりの基本計画は、理想であって、稼働した際の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めんどうなものは埋め立てゴミへというその場しのぎの安易な考え方で埋め立てゴミが増えている網走市民への訴えは？ ・これまですべて埋め立て処理の美幌町民へどうやって訴える？ <p>などなど・・・ソフト面の計画が不足していると思う。</p>	<p>広域ごみ処理基本計画におけるハード及びソフト面の施策は、各市町が策定した一般廃棄物処理基本計画に基づき整理した内容です（2-102 頁～2-110 頁）。</p> <p>網走市では、ごみ処理基本計画を令和 5 年度策定予定であり、必要なソフト施策について検討し市民の皆様にご周知したいと考えます。</p> <p>美幌町においても町単独の一般廃棄物処理基本計画を策定し「可燃ごみと不燃ごみの分別」などのソフト施策をパブリック・コメントで周知済みであり、今後も周知・徹底する考えです。</p>
1-9	<p>全国どこの市町村でも、猫も杓子も「子どもたちの未来のため」という言葉を目標にしているが、ほんとうの意味で「ため」の計画なのか詳細の説明が不足している。</p> <p>ぼんやりとした内容。重要なのは、「大人が生き生きと生活しているか」が重要であって、どんなにこどもの未来を訴えても、根本的に働いている大人が「オワッテル感」で生活している、働いているのであれば、こどもは未来に希望なんか持てない。</p>	<p>頂いたご意見を真意に受け止めて、持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化に取り組んでまいります。</p>

No	意見の内容	斜網地区の考え方・対応
2-1	<p>この度の網走市廃棄物減量化等推進懇話会の会議でもたびたび発言されていますので、この基本計画も初めから焼却ありきの出来レース・敷かれたレールだと理解していますが・・・やはり、このまま焼却施設を作ってしまったら、私自身が、この先40年間後悔すると思いますのでコメントさせていただきます。焼却プラント業者5社の話だけしか聞かず、旧来の焼却方式に固執するのではなく、環境先進地の北海道にふさわしい、経済的で安全で環境に優しい方式を採用するようにしてもらいたいです。</p>	<p>斜網地区における必要な中間処理施設の規模と地域性を考慮した中で、道内オホーツク方面での施設整備・検討が可能なプラント業者を対象にアンケート調査を実施しています。</p> <p>焼却処理とあわせて生ごみのメタン発酵・メタンガス化による発電利用については、環境に優しい有機物のエネルギー転換技術として、今後も実現可能性を検討していきたいと考えます。</p>
2-2	<p>私は、中間処理施設にトンネルコンポストを勧めます。香川県三豊市で実践しているトンネルコンポスト方式のごみ処理施設は、焼却型ごみ処理施設と比べ環境に優しく、圧倒的に初期費用は安く、運営費も安価でたいへん優れた方式だと思います。</p> <p>焼却施設に比べて、導入経費が削減でき、環境保全という面でも有利なトンネルコンポスト方式を、生産した固形燃料の利用先の確保が課題・デメリットと言っていますが、トンネルコンポスト方式をちゃんと理解できていないままに拒否するのは、市の姿勢として柔軟性がなさすぎるのではないのでしょうか。</p> <p>1市4町の縛りではないにしろ、ゴミの量や距離で近隣市町村同士が広域連携することも可能だと思います。</p>	<p>生ごみの処理については、堆肥化の他、メタンガスによる発電利用など、地域に適した方式を今後も引き続き検討していきたいと考えます。</p>

No	意見の内容	斜網地区の考え方・対応
2-3	<p>ゴミの固形燃料を使用するため、塩素に強いボイラーを選ぶ、塩素を中和できる比率の調合で燃料として使用する事などのような課題があるのでしょうか。</p> <p>常時稼働の焼却施設でエネルギー回収を発電や暖房として考えているのですが、電気の蓄電はむずかしいし、暖房が必要ない季節には無駄になります。</p> <p>焼却施設の熱利用こそ、常に使い続けなければいけないデメリットだらけの無駄なものだと思います。</p> <p>固形燃料であれば温暖な季節にストックし、寒い季節の暖房として各施設に運んで使うなど、寒冷地においてはメリットにみえます。</p> <p>固形燃料を発電利用する場合にも、ストックしておいた燃料を電力が逼迫する季節に使用するなど柔軟性があります。</p> <p>市の新庁舎建設の他に、現市役所後に合同庁舎を新設するような噂を聞きますが、新しい施設の暖房ボイラーを固形燃料の使用にするなど、再度検討してほしいです。</p>	<p>塩素に強いボイラーを選ぶ場合、焼却炉と同じようなダイオキシン発生対策及び内部腐食の対策が必要となり、通常のバイオマスボイラー等より非常に高価になります。</p> <p>現在、安定的に固形燃料（RDF）を燃焼させるボイラーは非常に少なく、斜里町で導入しているバイオボイラーも稼働はしていますが、メーカーは販売から撤退していると聞いております。</p> <p>塩素を中和させる場合の課題ですが、製紙工場のボイラーでの塩素濃度基準は 0.3%以下が多く使用されています。ごみの塩素濃度が仮に 1% の場合、塩素を希釈するために塩素を含まない原料を 3 倍以上用意する必要があります。</p> <p>オホーツク地域では、近隣で大量に固形燃料を使用する企業等がないことから、固形燃料化方式は現実的ではないと考えます。</p> <p>なお焼却施設による余熱利用については、熱交換器を用いた冷房として、夏場も利用が可能です。</p>
3-1	<p>とても興味深い資料でした。各市町村の最終処分場がどのようになるか気になります。</p>	<p>1 市 4 町の最終処分場の現状については、一番早く美幌町が令和 6 年度、小清水町が令和 7 年度に満杯となる予測であり、この 2 町では既に新たな最終処分場の整備・検討を進めています。</p>
3-2	<p>焼却ならば、ごみの分別ももう少し簡単にしてくれると良いと思います。</p>	<p>ごみの分別方法については、住民の皆さまにわかりやすく簡単な分別区分を検討していきたいと考えます。</p>